

<子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い（校種別）（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

- ・「危機管理や子どもの心のケアに関する教職員の意識の違いがあり、対応にばらつきがみられる」については、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学級担任と養護教諭は、学校段階が上がるにつれて割合が高くなる傾向にあり、いずれの職種も高等学校の割合が5割を超えていたが、校（園）長は3割以下であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題への対応に当たっての課題」
「子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い、対応のばらつき」（共通質問）

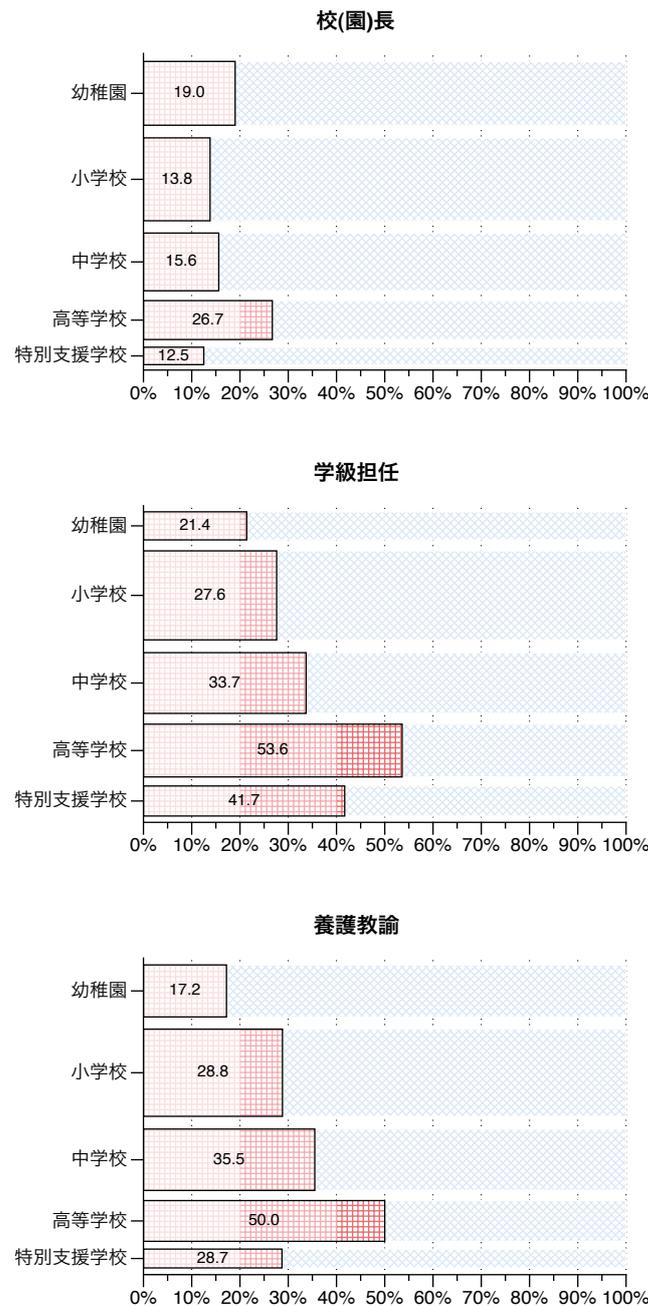


図 5.10：子どもの心のケアに関する教職員の意識の違い（心のケアに関する知識・理解・校種別）

< 集団指導の実施（学級担任調査問10、養護教諭調査問12） >

・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、学級担任と養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「集団指導や学級で心のケアを実施している」割合は、学級担任20.9%、養護教諭10.7%であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）

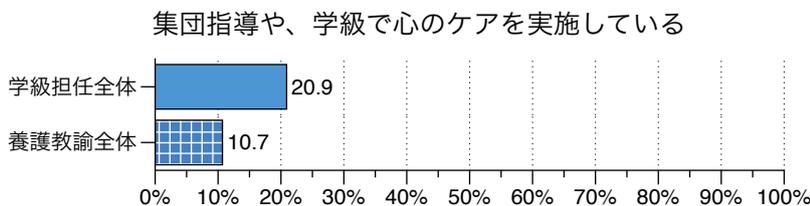


図 5.11：集団指導の実施（子どもの心のケアに関する知識・理解）

< 集団指導の実施（校種別） >

・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「集団指導や学級で心のケアを実施」している学級担任は小学校（24.9%）と中学校（21.5%）の割合が高く、養護教諭は幼稚園（14.4%）の割合がやや高かった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」（共通質問）（複数回答）

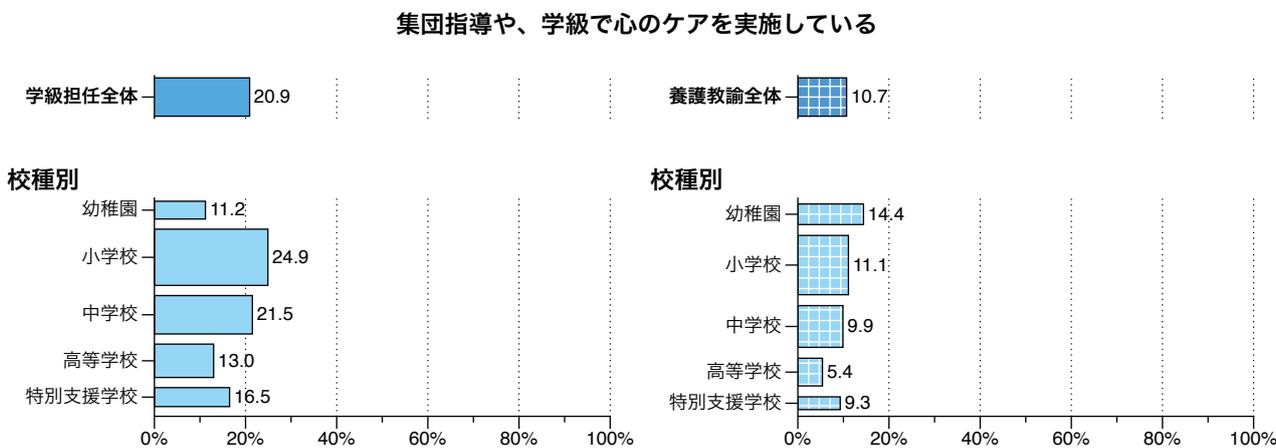


図 5.12：集団指導の実施（心のケアに関する知識・理解・校種別）

<研修への参加（校（園）長調査問19、学級担任調査問16、養護教諭調査問18）、
指導の経験（校（園）長調査問20、学級担任調査問17、養護教諭調査問19）>

- ・「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）に参加したことがある」（共通質問）について聞いたところ、校（園）長は80.4%、学級担任は48.7%、養護教諭は87.8%が「参加したことがある」と回答していた。また、「震災前、心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援」についても同様の結果であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「震災前、子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修を含む）への参加」（共通質問）

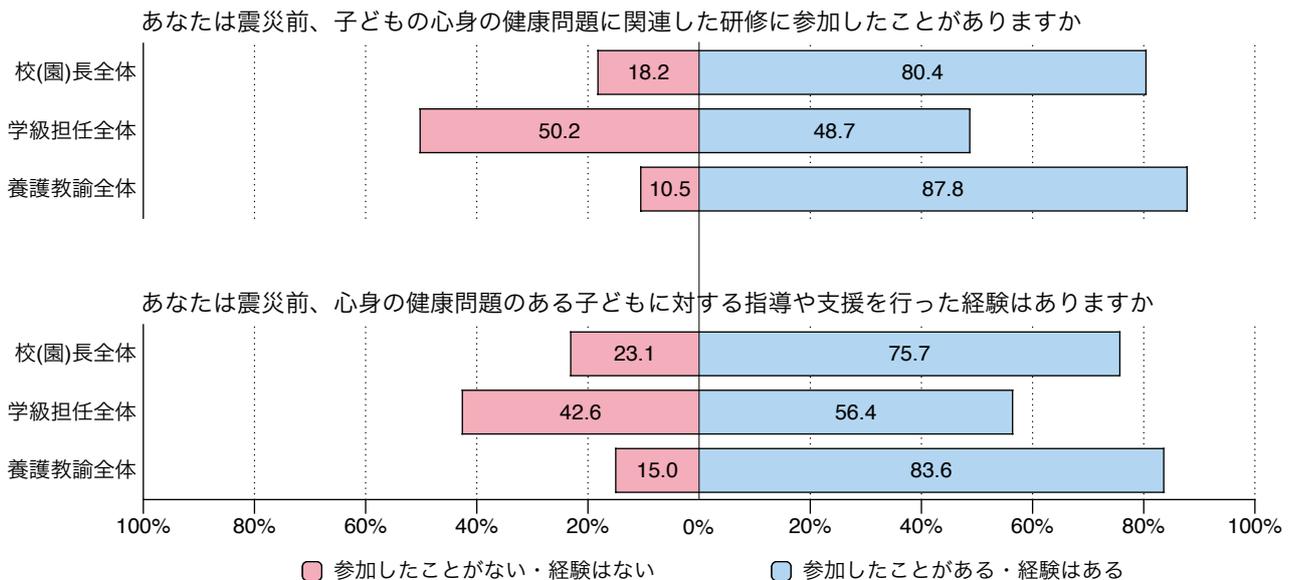


図 5.13：研修への参加・指導の経験（心のケアに関する知識・理解）

<保護者の希望（属性別）（保護者調査問6）>

- ・保護者調査で「震災（地震・津波・放射線）による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）を聞いたところ、「心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい」と希望しているのは、PTSDが疑われる症状やPTSDに関連する症状等、一般的な心身症状があると回答した保護者の割合が高かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

心のケアに関する研修会をさらに開催してほしい

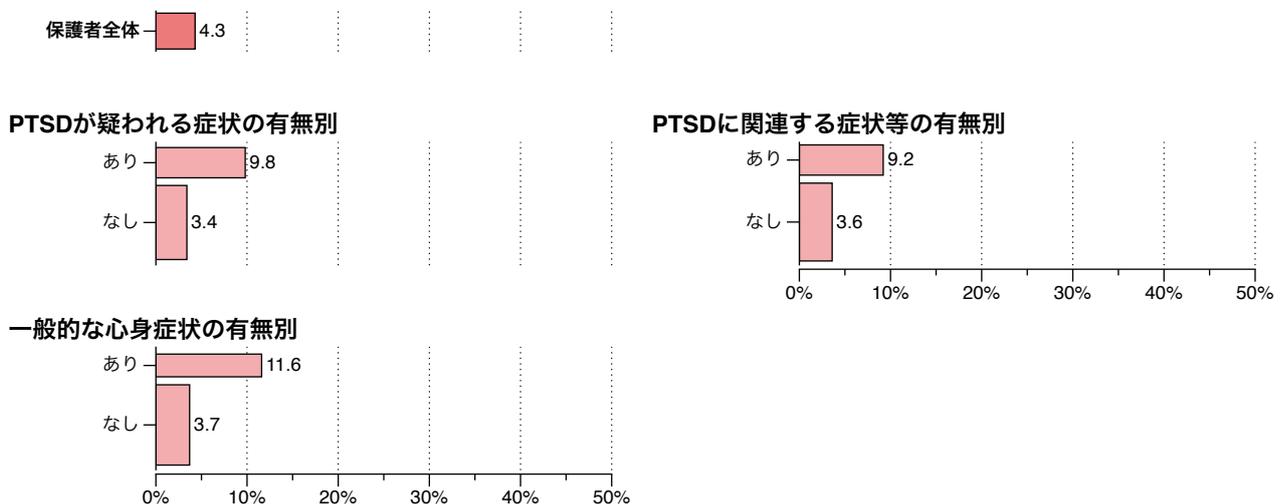


図 5.14：保護者の希望（心のケアに関する知識・理解・属性別）

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

・震災後の心身の健康問題の対応について、学校の取組を聞いたところ、「心のケアに関する知識・理解に関連する取組」については、校（園）長は「心のケアに関わる校内研修会実施」に56.8%、また、学級担任は「メンタルヘルスに関する基本的な知識を改めて修得」に44.1%、養護教諭は「医学的な情報を教職員に提供」に65.3%が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題への対応」（学校の取組）
学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題への対応」（各職種の取組）

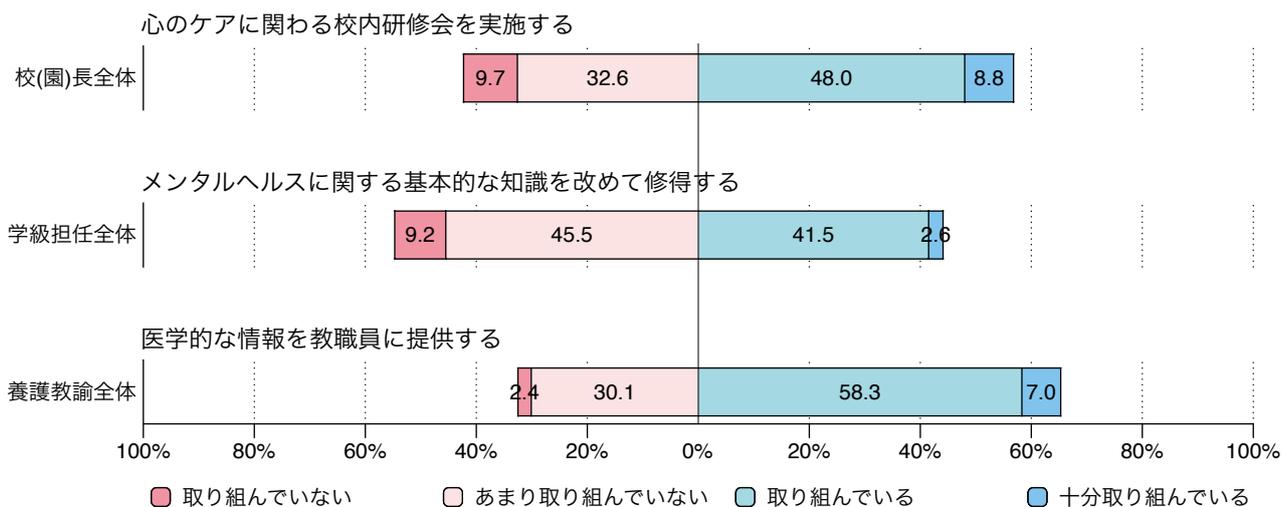


図 5.15：震災後の心身の健康問題への対応（心のケアに関する知識・理解）

<教職員対象の研修会（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

・心のケアに関する知識・理解に関わって、震災後のスクールカウンセラーの活動内容（複数回答）を聞いたところ、「教職員対象の研修会を行った」については、校種別では高等学校の割合がやや高く、地震や津波による被害の大きかった学校ほど研修会を行った割合が高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校への取組」（複数回答）

教職員対象の研修会を行った

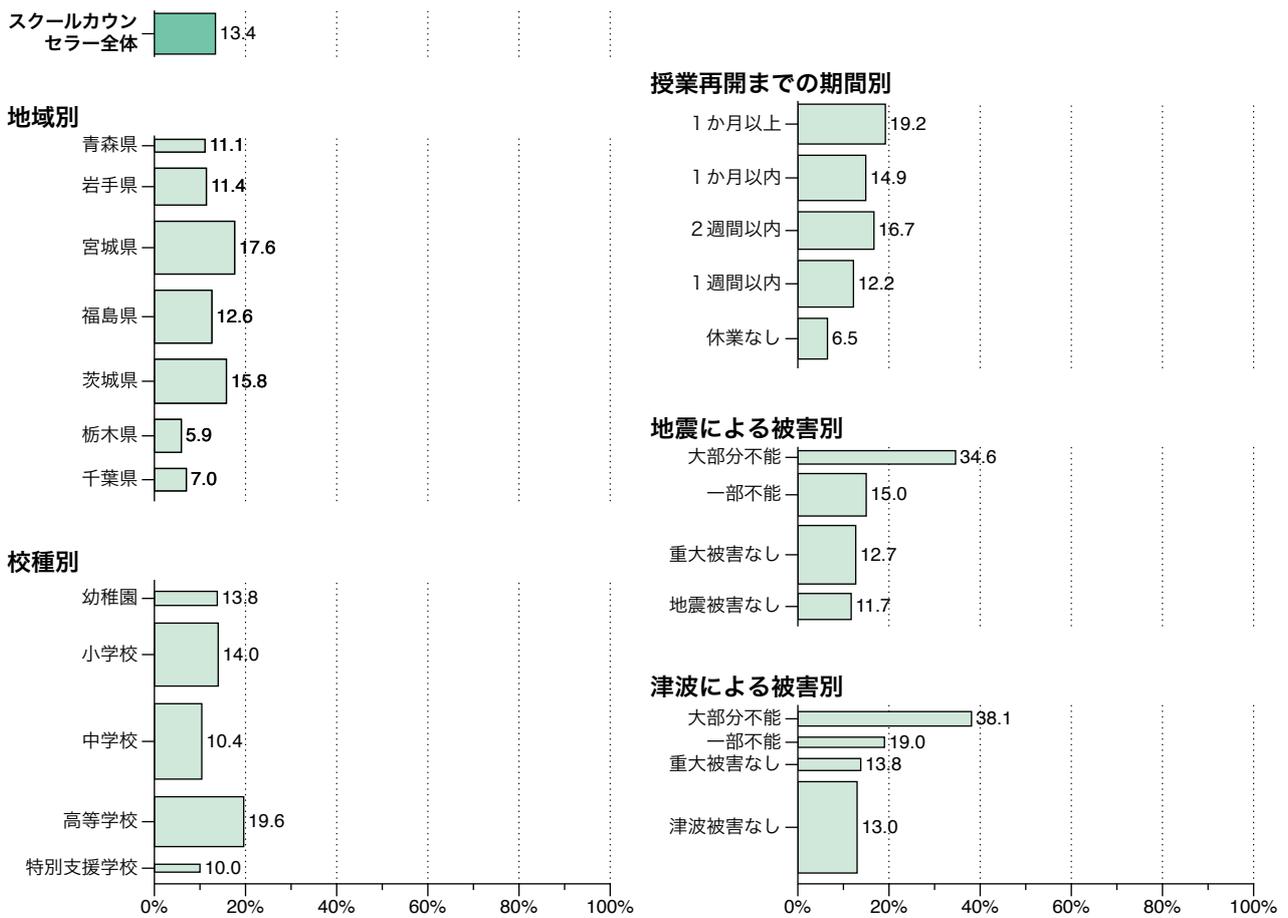


図 5.16：教職員対象の研修会（心のケアに関する知識・理解・属性別）

<参考資料の活用（校（園）長調査問15、学級担任調査問8、養護教諭調査問10）>

・子どもの心身の健康問題の対応について、活用している参考資料（複数回答）は、「子どもの心のケアのために」の活用が多く、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題へも対応」については、余り活用されていなかった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「子どもの心身の健康問題の対応について、活用している参考資料」（複数回答）

あなたは、子どもの心身の健康問題の対応について、どのような参考資料を活用していますか（複数回答）

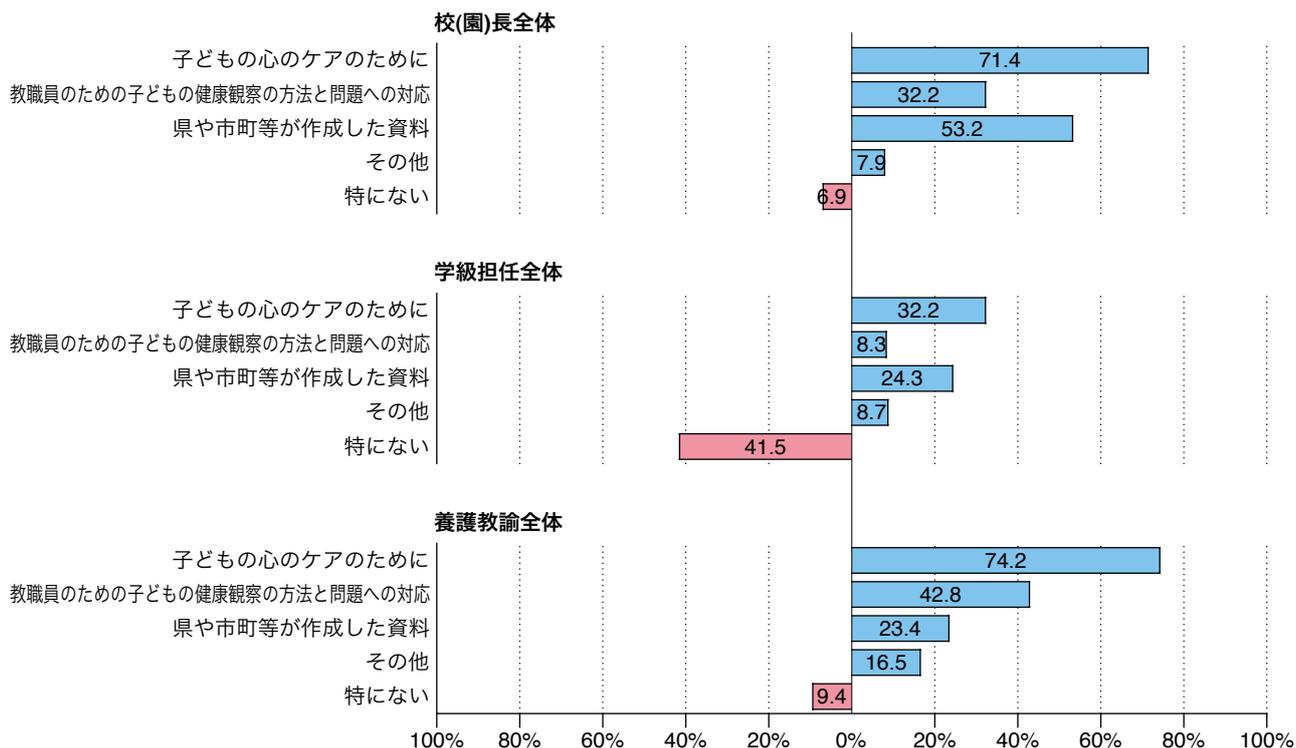


図 5.17：参考資料の活用（心のケアに関する知識・理解）

* 「子どもの心のケアのために—災害や事件・事故発生時を中心に—」文部科学省（平成22年7月）

災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア、子どもの体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方に加え、新潟県中越沖地震の被災地域の学校を対象に行った調査を踏まえた自然災害時における心のケアの進め方を提示。

* 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」文部科学省（平成21年3月）

健康観察の重要性や目的の理解、健康観察の視点や方法、健康観察表のモデル例の提示等、身体面のみならず心の健康に関する健康観察の視点や対応の在り方について、理解が深められるように構成。

<障害のある子どもへの支援（校（園）長調査問13、学級担任調査問12、養護教諭調査問14）>

・障害のある子どもの対応に当たって、課題があるか聞いたところ、どの職種も「発達障害・知的障害のある子どもへの支援が十分にできていない」と回答している割合が高かった。また、学級担任はいずれの障害についても、子どもへの支援が十分にできていないと回答している割合が高かった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「障害のある子どもへの対応に当たっての課題」（共通質問）

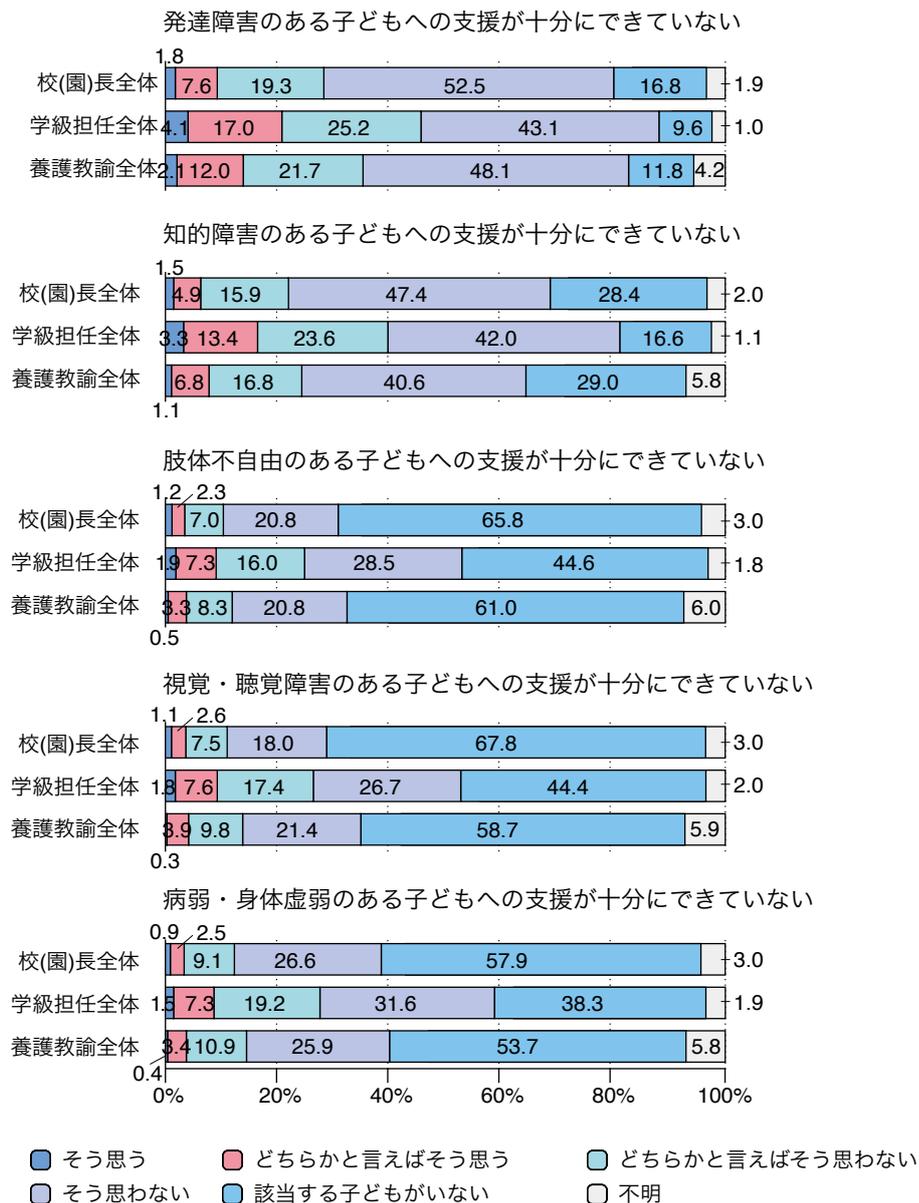


図 5.18：障害のある子どもへの支援（心のケアに関する知識・理解）

＜障害のある子どもへの支援について（属性別）（保護者の希望 保護者調査問6）＞

- ・震災後の子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと（複数回答）の中で「障害に配慮した支援」をさらに希望している保護者は、特別支援学校の割合が高く、19.8%であった。

表 5.1：障害のある子どもへの支援について保護者の希望

単位：%

保護者全体	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
1.7	1.9	1.7	1.5	1.3	19.8

＜健康観察と心のケアに関する資質のまとめ＞

- ・健康観察の実施に関連した学校の取組は、いずれも9割以上が取り組んでいると回答していた。
- ・保護者が子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むことの中で、「子どもの心身の状況をさらにきめ細かく把握してほしい」は19.3%であり、これは「保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい」（29.8%）に次いで2番目に多かった。また、学校段階が上がるにつれて減少し、幼稚園の23.7%に対して高等学校では14.7%であり、9ポイントの差があった。
- ・健康観察の内容分析に関連した取組については、校（園）長の8割以上、学級担任・養護教諭は9割以上が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。
- ・心のケアに関する知識・理解については、心身の健康問題に対する課題として、学級担任の5割、養護教諭の3割が「子どもの心のケアに関する教職員の基礎知識不十分である」と回答していた。また、学級担任や養護教諭の3割以上が「緊急対応や子どもの心のケアに関する教職員の意識の違いや対応のばらつきがみられる」と回答していた。
- ・「震災前に子どもの心身の健康問題に関連した研修（校内研修含む）」に参加したことがある校（園）長・養護教諭は8割以上、学級担任は5割に満たなかった。また、「震災前に心身の健康問題のある子どもに対する指導や支援」の経験についても同様の結果であった。
- ・参考資料については、「子どもの心のケアのために」の活用が多く、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」については、余り活用されていなかった。

5.2.2 組織体制の構築

心のケアのための校内連携体制

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6、養護教諭調査問8）>

- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「心のケアのための校内連携体制に関連した取組」をそれぞれの職種に聞いたところ、養護教諭の「子どもの個別の支援計画に参画する」を除いて、いずれも7割以上が取り組んでいた。

校（園）長調査「震災後の心身の健康問題についての対応」（学校の取組）

学級担任・養護教諭調査「震災後の子どもの心身の健康問題についての対応」（各職種の取組）

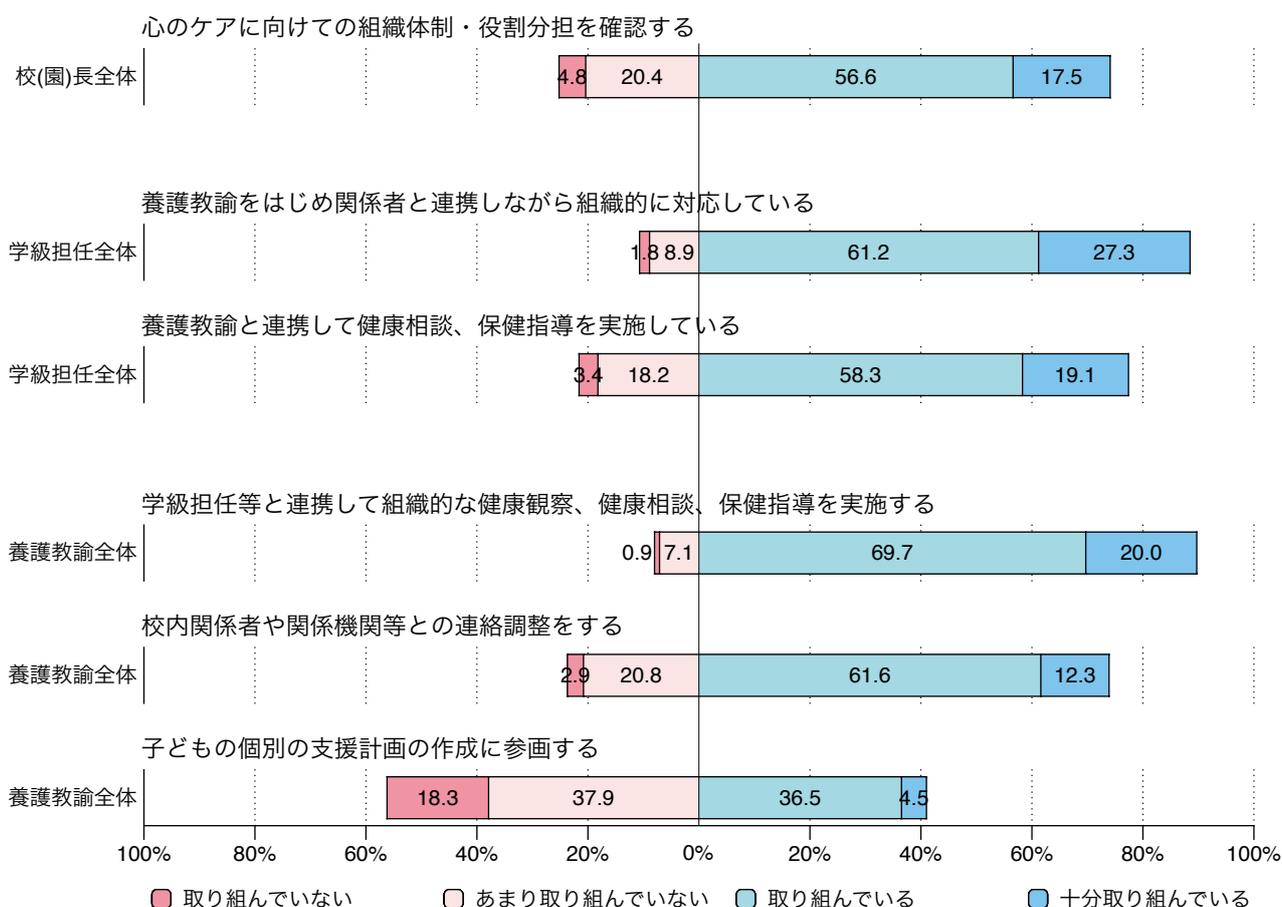


図 5.19：学校の取組（心のケアのための校内連携体制）

<教職員間での情報共有（校種別）（学級担任調査問10、養護教諭調査問12）>

- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応（複数回答）について、「教職員間で情報を共有し、組織で対応している」割合は、学級担任が62.8%、養護教諭が76.5%であった。学級担任・養護教諭ともに、学校段階が上がるにつれて取り組んでいる割合が高くなり、特別支援学校は幼稚園と同程度の割合であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもへの対応」
(共通質問) (複数回答)

教職員間で情報を共有し、組織で対応している

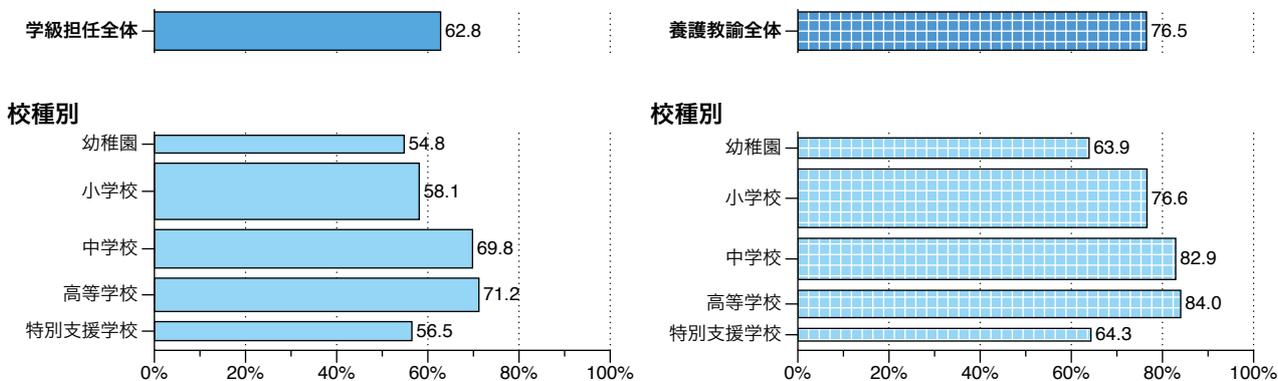


図 5.20：教職員間での情報共有 (心のケアのための校内連携体制・校種別)

保護者との連携

<心身の健康問題への対応に当たっての課題 (校 (園) 長調査問 12、学級担任調査問 11、養護教諭調査問 13) >

- ・「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」(共通質問)を各職種に聞いたところ、「家庭との連絡や状況把握が十分にできていない」については、校(園)長は6.7%、学級担任は17.1%、養護教諭は12.8%が、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。

校 (園) 長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」
(共通質問)

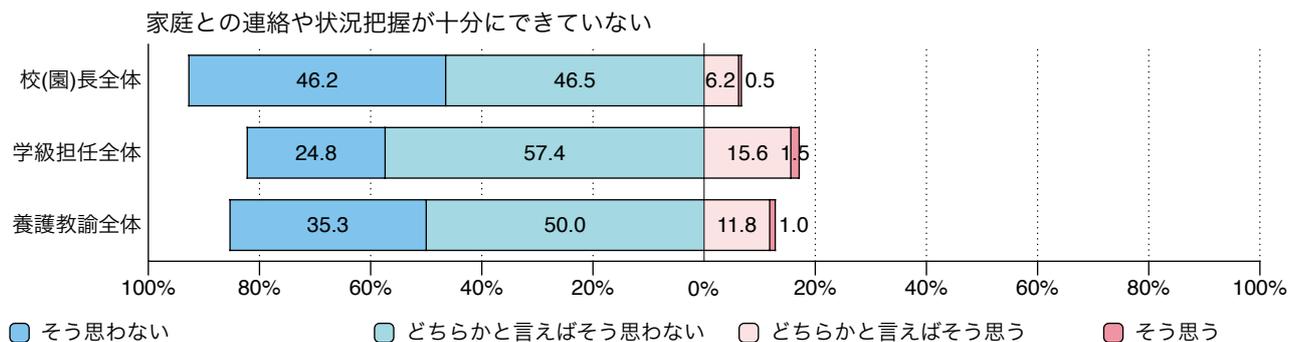


図 5.21：健康問題への対応に当たっての課題 (保護者との連携)

<保護者との連絡・協力の強化（属性別）（保護者調査問6）>

・震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと（複数回答）を保護者に聞いたところ、年齢が低い子どものいる保護者ほど「連絡・協力」をさらに望んでいた。また、「PTSDが疑われる症状」や「PTSDに関連する症状」、「一般的な心身不良の症状」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど、連携・協力をさらに望んでいた。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題への対応について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

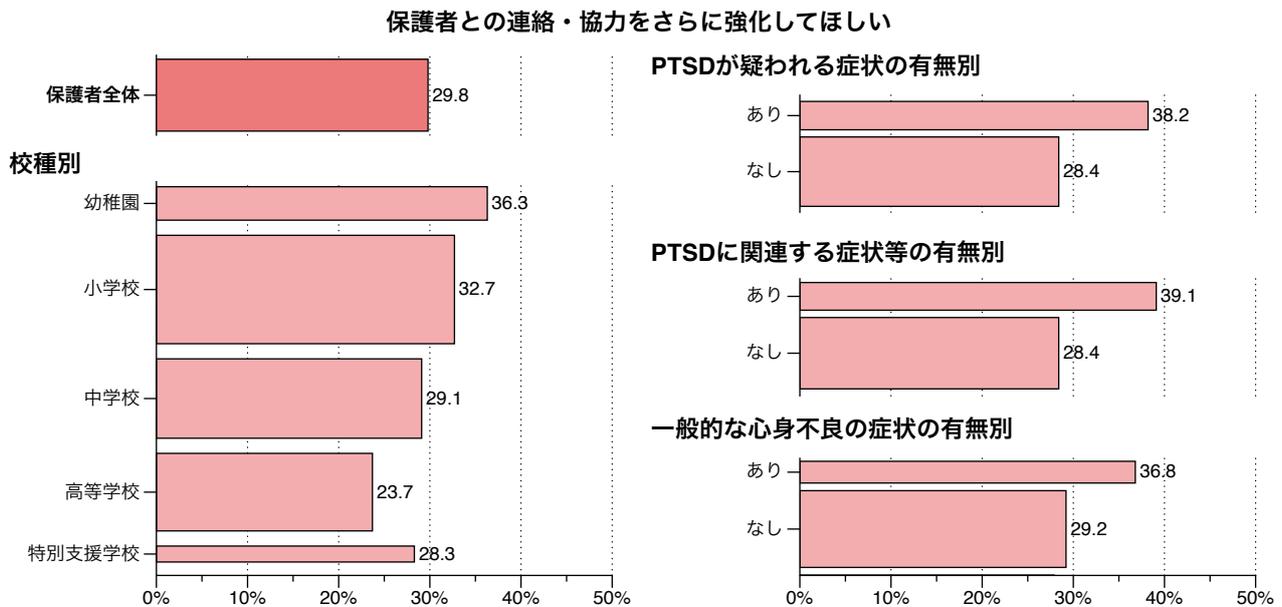


図 5.22：保護者との連絡・協力の強化（保護者との連携）

<学校の取組（校（園）長調査問10、学級担任調査問6）>

・震災後の子どもの心身の健康問題への対応について、学校の取組を聞いたところ、「保護者との連携に関する取組」については、校（園）長は「子どもの心のケアに対する学校の方針・具体的な対応について、保護者説明会を実施する」に36.9%、「子どもの心のケアについて保護者を支援する」に66.8%、学級担任は「保護者及び子どもが相談しやすい人間関係づくりに努めている」に95.2%が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

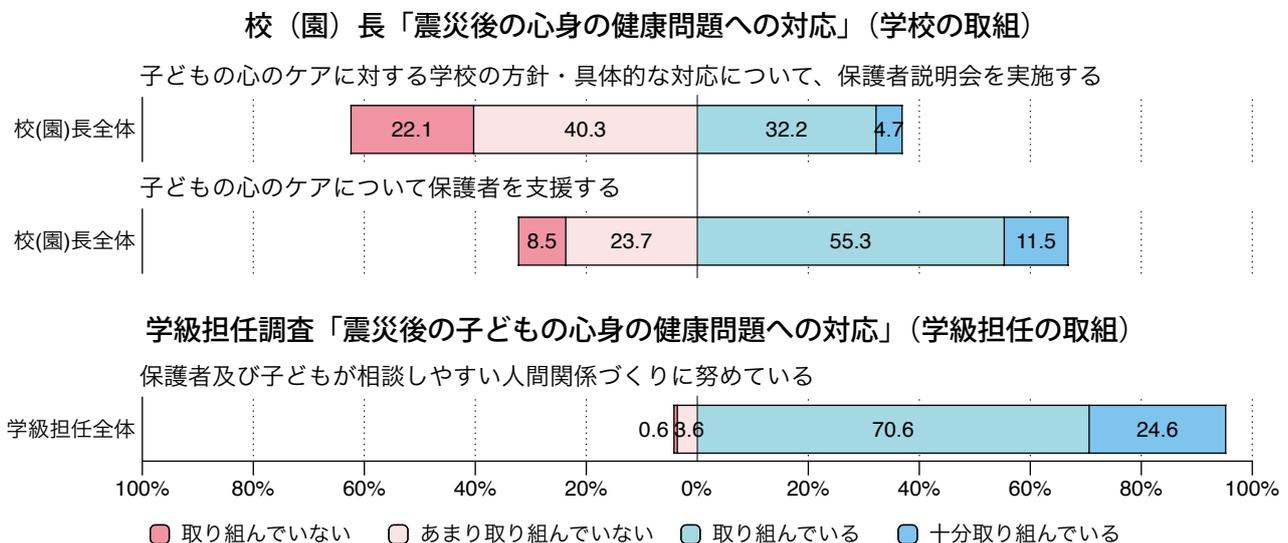


図 5.23：学校の取組（保護者との連携）

<専門医や相談機関の紹介（校種別）（学級担任調査問10、養護教諭調査問12）>

・特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応（複数回答）について、学級担任や養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「専門医や相談機関を紹介」している学級担任は13.5%、養護教諭は30.7%であった。学級担任・養護教諭ともに、学校段階が上がるにつれて割合が高かった。特別支援学校については、学級担任は小学校、養護教諭は中学校と同じ程度の割合であった。

学級担任・養護教諭調査「特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応」（共通質問）（複数回答）

専門医や相談機関を紹介している

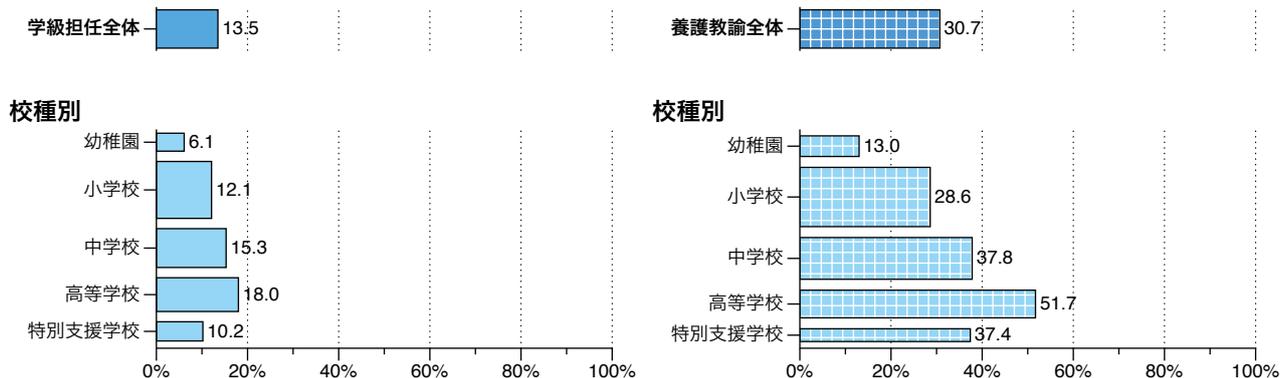


図 5.24：専門医や相談機関の紹介（保護者との連携・校種別）

<保護者対象の研修会（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）>

・震災後のスクールカウンセラーの活動（複数回答）として、「保護者対象の研修会」を行ったスクールカウンセラーは3.7%であった。校種別では幼稚園が13.8%と一番高かった。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」

表 5.2 保護者対象の研修会を行った

単位：%

スクールカウンセラー全体	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
3.7	13.8	5.6	2.1	3.5	—

地域の専門機関との連携

<心身の健康問題への対応に当たっての課題（校（園）長調査12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

- ・心身の健康問題に対応するに当たっての課題（共通質問）を各職種に聞いたところ、「関係機関等との連携が十分に図られていない」については、校（園）長は84.2%、学級担任は61.7%、養護教諭は67.3%が「そう思わない」あるいは「どちらかと言えばそう思わない」と回答していた。

学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」（共通質問）

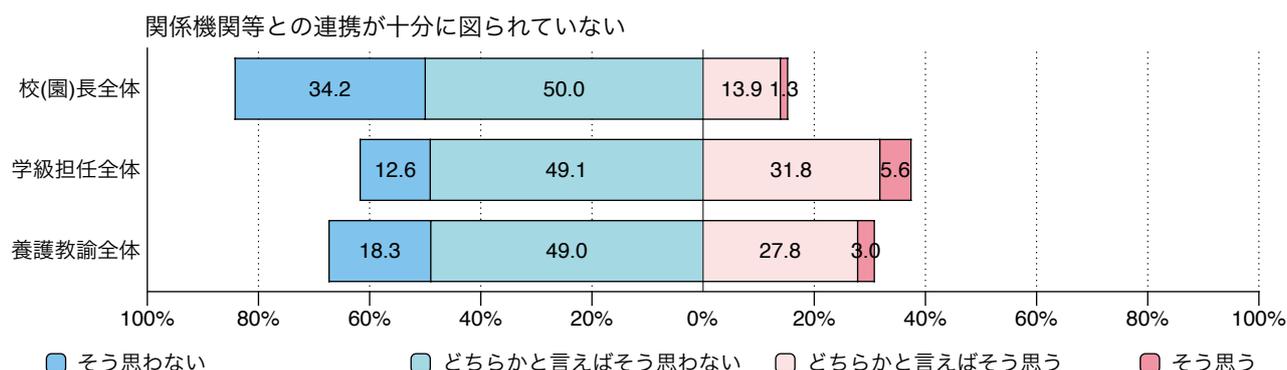


図 5.25：心身の健康問題への対応に当たっての課題（地域の専門機関との連携）

<専門の相談機関との連絡体制（属性別）（保護者調査問6）>

- ・震災による子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと（複数回答）を保護者に聞いたところ、「専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい」と希望しているのは、「PTSD が疑われる症状」や「PTSD に関連する症状等」、「一般的な心身症状」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど割合が高かった。

保護者調査「震災による子どもの心身の健康問題について、さらに学校に望むこと」（複数回答）

専門の相談機関とすぐに連絡できる体制をさらに整えてほしい

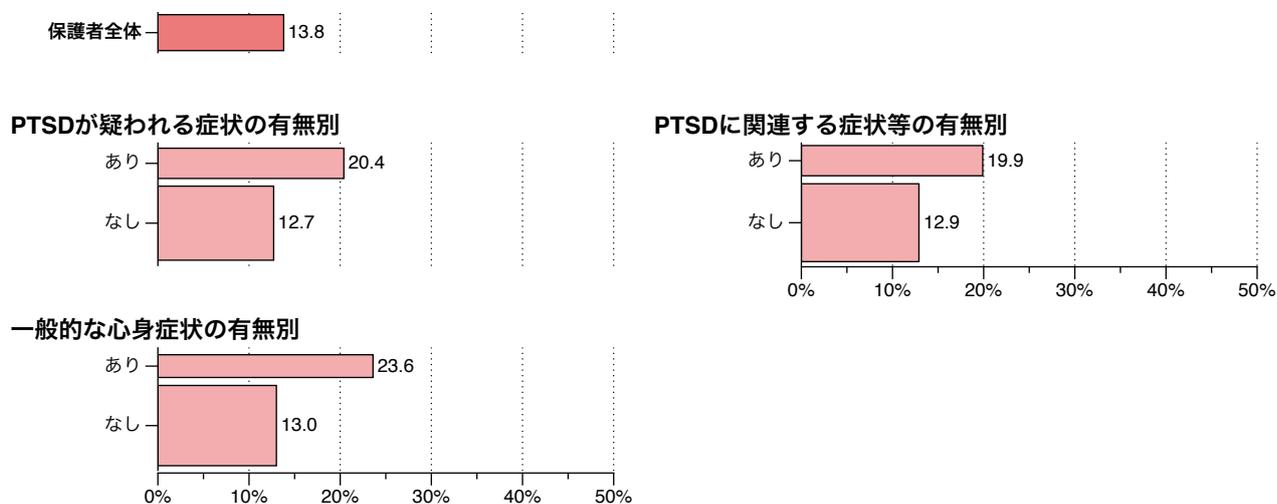


図 5.26：専門の相談機関との連絡体制（地域の専門機関との連携）

<子どもの心のケアを行う専門機関（学級担任調査問9、養護教諭調査問11）>

- ・子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関を学級担任・養護教諭（共通質問）に聞いたところ、「子どもの心のケアを行う専門機関」については、具体的な情報を知っている学級担任は15.0%、養護教諭は40.1%であった。
- ・「震災後開設された相談機関」について具体的な情報を知っている学級担任は少なく、養護教諭も16.9%であった。

学級担任・養護教諭調査「子どもの心のケアを行う専門機関や震災後開設された相談機関の情報」（共通質問）

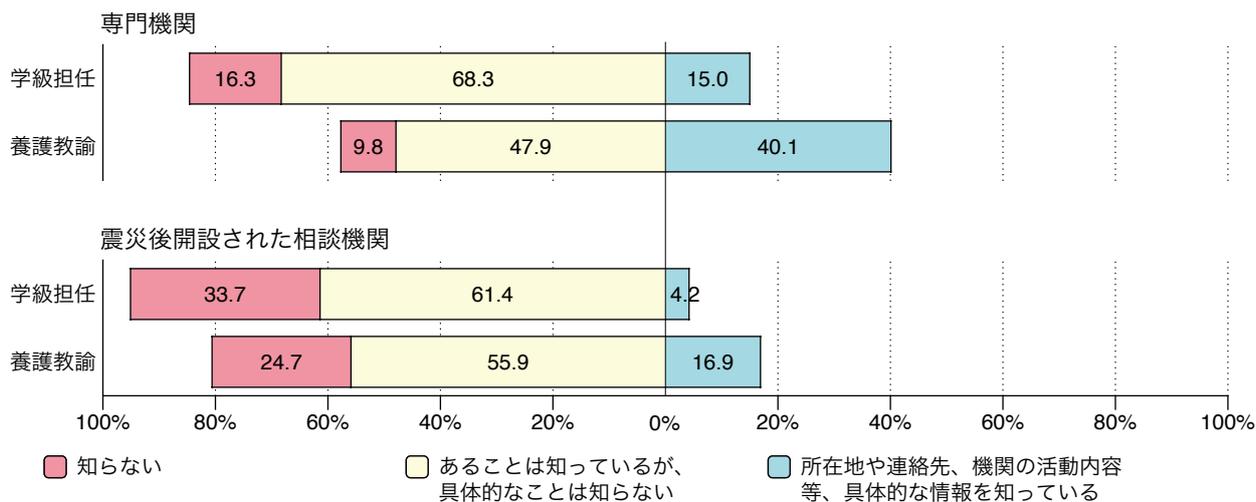


図 5.27：子どもの心のケアを行う専門機関（地域の専門機関との連携）

<学校の取組（校（園）長調査問10、養護教諭調査問8）>

- ・震災後の子どもの心身の健康問題への対応について、学校の取組を聞いたところ「地域の専門機関との連携に関する取組」については、校（園）長は「学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携」に58.7%、「地域の関係機関等との協力体制の確立」に65.0%、養護教諭は「地域の医療機関や相談機関等の情報を提供」に56.2%、「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。

校（園）長調査「心身の健康問題への対応」（学校の取組）



養護教諭調査「子どもの心身の健康問題への対応」（養護教諭の取組）

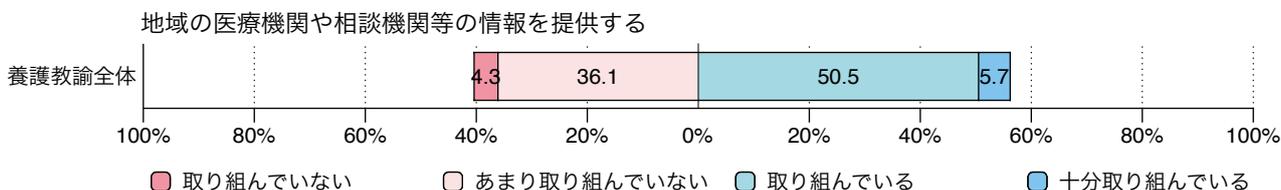


図 5.28：学校の取組（地域の専門機関との連携）

＜関係機関との連携に関するつなぎ役（属性別）（スクールカウンセラー調査問6）＞

- ・スクールカウンセラーが震災後、学校での活動（複数回答）の中で、「専門機関との連携に関するつなぎ役」になった割合は、幼稚園(24.1%)の割合が高かった。また、授業再開までの期間が長いほど割合が高くなる傾向が見られた。

スクールカウンセラー調査「震災後の学校での活動」（複数回答）

関係機関との連携に関するつなぎ役になった

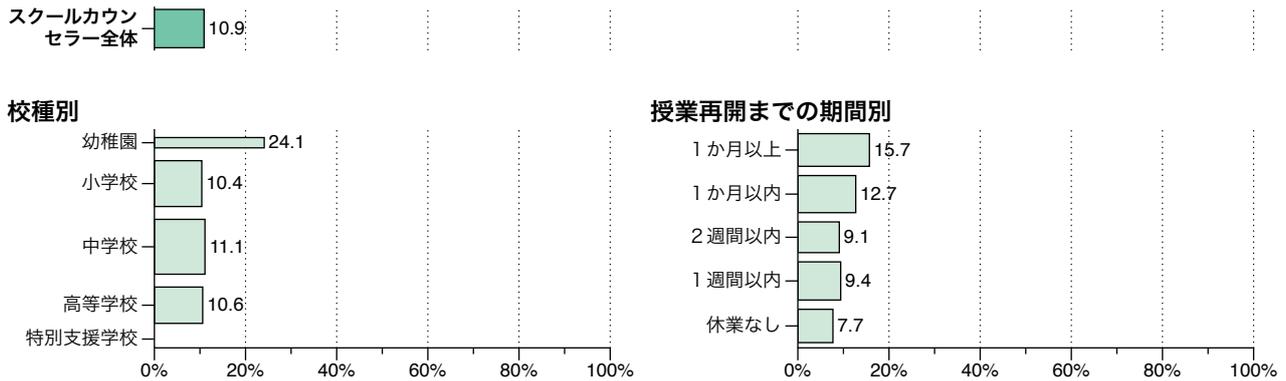


図 5.29：関係機関との連携に関するつなぎ役（地域の専門機関との連携）

＜組織体制の構築のまとめ＞

- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「心のケアのための校内体制に関連した取組」をそれぞれの職種に聞いたところ、養護教諭の「子どもの個別の支援計画に参画する」を除いて、いずれも7割以上が取り組んでいた。
- ・特に専門的な心のケアが必要な子どもの対応については、「教職員で情報を共有し、組織で対応している」と回答した学級担任は62.8%、養護教諭は76.5%であった。学級担任・養護教諭ともに学校段階が上がるほど割合が高くなる傾向が見られた。
- ・保護者との連携については、校（園）長、学級担任、養護教諭は8割以上ができていると回答していた。
- ・震災による子どもの心身の健康問題への対応について、「保護者との連絡・協力をさらに強化してほしい」と望んでいるのは、年齢が低い子どもの保護者ほど多かった。また、「PTSDが疑われる症状」や「PTSDに関連する症状等」が「ある」と回答した子どもの保護者ほど、連絡・協力をさらに望んでいた。
- ・震災後の子どもの心身の健康問題の対応について、「地域の専門機関との連携に関連した取組」については、校（園）長は「学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携」、「地域の関係機関等との協力体制の確立」、養護教諭は「地域の医療機関や相談機関等との情報提供」に5割以上が「十分取り組んでいる」あるいは「取り組んでいる」と回答していた。
- ・「子どもの心のケアを行う専門機関」について、具体的な情報を知っている学級担任は15.0%、養護教諭は40.1%であった。また、「震災後開設された相談機関」については、学級担任・養護教諭ともに具体的な情報を知っている割合が低かった。

5.2.3 支援者のメンタルヘルス

教職員自身の心の安定

<健康不安の有無（校（園）長調査問21、学級担任調査問18、養護教諭調査問20）>

・「教職員自身の震災の影響と思われる健康不安」について各職種（共通質問）に聞いたところ、「健康不安がある」と回答したのは、校（園）長 16.9%、学級担任 16.2%、養護教諭 30.4%であった。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「教職員自身の震災の影響と思われる健康不安」（共通質問）

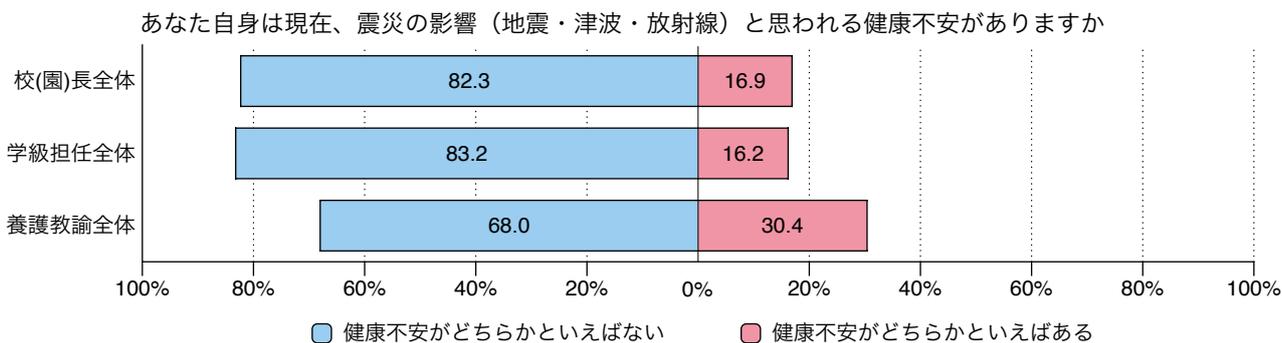


図 5.30：健康不安の有無（教職員自身の心の安定）

<心身の健康問題への対応に当たっての課題（校（園）長調査問12、学級担任調査問11、養護教諭調査問13）>

・心身の健康問題に対応するに当たっての課題を各職種（共通質問）に聞いたところ、「職員の心のケア」については、校（園）長の10.8%、学級担任の39.1%、養護教諭の35.0%が「課題がある」と回答していた。

校（園）長・学級担任・養護教諭調査「心身の健康問題に対応するに当たっての課題」（共通質問）

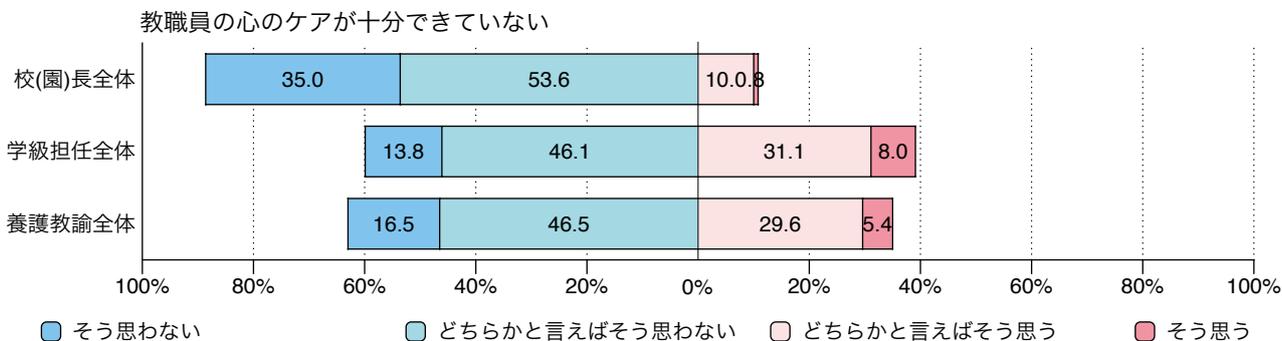


図 5.31：心身の健康問題への対応に当たっての課題（教職員自身の心の安定）